



西寒野のケアハウス桜の丘入居者の皆さんが手作りした鉛筆立てを町内新入児童全員に贈呈（白旗小学校）

うたごよみ 一 皐月

「短歌」

未納三雄選

望み無しとは認めず肉親を探し行く人に非情の吹雪
内山タミエ

被災地に咲く一本の白梅は皆の心に勇気を与え
緒方 明美

吊されし干し大根の色付きて通る度ごと甘く香れり
赤星 延子

医大へとこの春やつと「サクラサク」その子の母の声は明るし
塚原 暁益

津波来て万の人流す大地震家は瓦礫となれる惨状
本田富美子

大地震に悪魔の如き大津波人家呑み込み瓦礫と化せり
松本ぬい子

山中の墓に詣でて鶯の初音聞きたり今日は立春
森田 房恵

こんなにも恐ろしきことあるのかと泣いて震えるテレビの前で
内田乃武子

朝庭は水仙の花香りつつ空は青空照る陽もやさし
井上ユリ子

子の三人欲しき世にあり三株の紫すみれ道の辺に咲く
上村 かず

恐るべき五〇〇Kの大津波一瞬にして町は呑まれる
吉永由紀子

被災地に勇気と元氣届けよと高校球児の熱戦つづく
上村やす美

夕暮れの校庭見らの影も無く鉄棒・ぶらんこ滑り台立つ
渡辺 幸士

「川柳」

「桜」

嫁と花見濃い八女茶と桜餅

伊豆野ヤエ

花見客人人人で足踏まれ

福田 清子

新幹線「さくら」に希望乗せて行く

古閑チヨミ

桜咲く「桜の丘」やすばらしき

楠井かをる

久し振り昔を語る桜の下

布田 愛子

花の香も知らぬ桜の花見客

内村 邦炎

「別れ」

いい奴だった別れた友を懐かしむ

林 雅之

もう逢えぬ人を笑顔で送り出す

成松 松枝

ドクターストップ酒屋の前で深呼吸

北 仁子

親友と別れ握手にジンと来る

早 彦喜

ストップ・発車赤信号の別れ道

緒方 瑞枝

別れ道手を振る子等のあどけなさ

道上キヌ子

ふらふらと未来図の的定まらず

丸岡はる子

花吹雪 去った男のことはよし

渡辺 幸士

「俳句」

耕して仰ぐ山の端雲浮かぶ

高田れい子

春寒の子等や元氣に野をかける

堀田 孝恵

春の雲仰ぎて急ぐ句の会へ

本田 信子

ドライブし春を満喫子に感謝

古田 幸子

狭庭ながら遅速のありて木々芽吹く

楠本 美鶴

めぐり来る市の楽しみ苗木買ふ

田端 慶子

■お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局
☎ 096・234・1111（内線321）

ひとの動き (敬称略)

3月11日(金)～4月10日(日)

birth お誕生おめでとう

住所	氏名	性別	保護者
芝原	毛利	男	樹一優
府領	石田	女	真竜
横田	上田	女	一太
世持	志垣	女	介介
豊内	宮地	男	俊哲
緑町	堀隆	男	大智
糸田	林宮	男	弘成
早川	宮崎	女	己己
中横	本田	女	賢治
有安	緒方	女	郎郎

marriage ご結婚おめでとう

住所	氏名
御船町	岩下 祐輝
妻内	村上 木乃美
妻益城町	富田 俊一
妻下横田	北村 恵子
妻上早川	岩本 伸介
妻カナダ	隅田 満里子
妻阿蘇市	清原 隼人
妻糸田	緒方 美咲
妻津志田	宮地 繁
妻熊本市	角田 多恵子
妻豊内	米原 信
妻熊本市	佐藤 美咲
妻南阿蘇村	緒方 聖人
妻横田	田添 麻里

condolence お悔やみ申し上げます

住所	氏名	年齢	世帯主
豊内	福島 曙美	70	義人
早川	濱田 末敏	80	ミ工子
中山	大森 茂	85	次雄
早川	松本 健次	73	トヨ子
津志田	北岡 静香	87	静香

Data 甲佐町の人口・世帯数

項目	数	増減
男	5,411	△1
女	6,110	△18
計	11,540	△19
世帯数	4,189	6

平成23年3月31日現在

〔町史編さんだより〕

ムササビは、主に宮内地区に生息し、平成17年ごろまでは、甲佐神社にも生息し滑空していたそうです。昨年の秋、甲佐神社で3回調査観察をしましたが確認できませんでした。でも、鹿里では、鳴き声を聞くことができました。

ムササビはリスの仲間、南方系の生き物です。近縁種が東南アジアに生息します。ムササビは奥山だけでなく、里山にも生息します。ムササビは、熊本市の富合町や池田町でも生息が確認されています。ムササビが人間社会に近い里山でも生息できる理由は、体重が1000gあり、体が大きいので移動能力があり、環境異変への耐える力があるからだと考えられています。

ムササビは樹上に暮らし、樹洞に住みます。日没後しば

甲佐神社にも生息していたムササビは森林を好む



甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(32)～

ムササビが滑空する甲佐町の森林

町史編集委員 中田 裕一 (生物)

らくして移動を始め、森林で餌を食べ、日の出ごろに帰ってきます。

移動の際は、木のてっぺんで登り、木の高さの3倍程度滑空します。木の高さが30mだと、90m滑空します。滑空するときは、座布団ぐらゐの大

きさに皮膚を広げます。餌は植物で、樹木の葉や花や実などを食べます。天敵は、テンやイエネコですが、フクロウ、タカなどの猛禽類に捕食されることもあります。

しかし、ムササビにとっての最大の天敵は、人間ではないで

しょうか。捕獲などで、ここ100年間で個体数が激減しました。熊本県では、準絶滅危惧種に指定されています。

ムササビは、次の3つの条件が揃っている場所で滑空します。

- ① 隠れる場所(身を隠すための大きな木)
- ② 日々の餌(四季を通して樹木の葉・花・実が揃う多種の樹木が広範囲にある森)
- ③ 巣(大きな木の上部にある洞)

ムササビにとっての理想の生息地(日々を生き延び、子を産み育てることができる場所)は、「古くて広い場所」です。しっかり守っていきましょう。

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先
町社会教育課町史編集係
☎096・234・3310

戦前の物理学者・寺田寅彦の言葉とされる「天災は忘れられたるにやってくる」。3月の大震災で、改めて思い返された人も多いのではないのでしょうか。

この大震災で浮き彫りになった問題の一つに、津波のように交錯する多数の情報の中から、いかに正しい情報を収集するかということがあります。

例えば通信手段では、発生直後の安否確認。携帯電話やメールは通じない状況下でも、チャットのジャスミン革命で有名になった「Twitter」などの通信サービスならば、同じ携帯電話から通信ができたなど、新しい方法があることも判明しました。マスコミの報道よりも早く、多種多様な情報を取得できる現代。自分が置かれている状況下で必要な情報を得る手段を検討することも、平常時にできる災害対策の一つでしょう。(一)

編集後記